

夢の懸け橋

NPO法人 愛伝舎
夢の懸け橋奨学金事務局

謹んで新年のお喜びを申し上げます



平成最後の正月です。元号が切り替わることを機に、これまでの一年の振り返りとこれからの一年の抱負には、「平成時代の総括」の意味合いを感じずにはられません。

外国ルーツの子どもたちの進学事情は奨学金事業を始めたころよりも良くなったように見えます。

それでも昨夏のアンケート調査では経済的な問題が散見され、「(辛いのは)自分だけじゃないとわかった」「頑張ろうという気持ちになった」などの感想から疎外感や孤独感を抱えていた姿が浮かび上がりました。

社会の雇用事情は安定してきたようでも、外国人労働者が置かれている立場は不安定な場合が多く、家族のそんな経済事情を奨学生は知っています。事情を理解しているから、どうしても不安や困り事を独りで抱え込みがちになります。「自分だけではない」という他

者への存在の気づきや共感が、想定外のエンパワメントになったのは調査の副産物でした。

ところで、「がん哲学外来カフェ」という会合をご存知でしょうか。医療現場とがん患者の間にある精神的な隙間を、『**『がんであっても尊厳をもって人生を生き切ることのできる社会』**の実現を目指し、より多くのがん患者が、**垣根を越えた様々な方との対話により、『病気であっても、病人ではない』**という、安心した人生を送れるように、**寄り添って**」(HPより抜粋)行く活動です。

集まりやすい場所で、立場を越えて集う交流の場をつくることから始まったというこの「がん哲学外来カフェ」。分野は違えど、奨学金の事業活動に通ずるものがあります。様々なステークホルダーが対等に、主体者として協働する方法を私たちも模索しながら、企画運営しています。今後ご支援ご協力よろしく申し上げます。

■ 第七回要項送付

三重県教育委員会高校教育課のご協力により、今年も外国籍生徒が在籍する高校に対して、奨学生募集要項を各課程別に送付しました。地域別の校数は下記の通りです。

地域	北勢			中勢			南勢・東紀州			伊賀		
	全日	定時	通信	全日	定時	通信	全日	定時	通信	全日	定時	通信
送付校数	15	3	1	17	3	1	7	1		4	2	

■ 外国籍高校生の教育機会について

今回、県立高校の外国籍生徒在籍数（総数）も同委員会に教えていただきました。

- ・平成 30 年度三重県立高校の外国籍生徒在籍数

全日制	定時制	通信制
509 名	286 名	21 名

全日制の在籍が全課程の 60%を超えています。5 年前まで実施していた放課後学習支援事業で、中 3 生の保護者が何としてでも全日制に入れたいと言っていたことを思い出し、その願いが叶ってきていることを素直に喜びたいと思います。

9月30日、朝日新聞に「日本語教育必要な生徒、1割弱中退 公立校平均の7倍超」という記事が出ました（記事 HP より表を抜粋して掲載）。日本語教育が必要な子どもへの支援の必要性

	日本語教育が必要な高校生	公立高校生
中退率	9.61%	1.27%
進学率	42.19%	71.24%
非正規就職率	40.00%	4.62%
進学も就職もしていない生徒の率	18.18%	6.50%

〔文部科学省まとめ。日本語教育が必要な高校生は2017年度、公立高校生は16年度の数値〕

はかねてから知られています。小中学校と比べて高校の支援は手薄だとされていますから、文部科学省が調査を「初めて」実施したことは前進です。

ただ、以前から「日本語指導が必要だ」と**在籍校が判断すること**については、在籍校の状況や教師側の主観が多分に影響すると言われていました。また、日常会話ができるから日本語指導が必要ではないと判断されていても、学習を深めていくための言語を学年相応に習得しているとは限らず、そのような外国ルーツの生徒や帰国子女はこの統計からは漏れています。

「平成 28 年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」（以下、生徒指導調査という、実施：文部科学省）では高校の中退理由を以下の 8 つに分類しています。

- ① 学業不振
- ② 学校生活・学業不適応
- ③ 進路変更
- ④ 病気・怪我・死亡
- ⑤ 経済的理由
- ⑥ 家庭の事情
- ⑦ 問題行動等
- ⑧ その他

公立高校生の中退理由は、②と③がほぼ同率で全体の約7割を占め、次に①が8%です。今回の記事では生徒指導調査のような中退理由まではふれられておらず、高校中退が単に言葉に起因するものなのかどうかはもっと精緻な調査と考察を待ってから、見極める必要があるでしょう。

上記の記事を受けて、三重県の外国ルーツの公立高校生在籍数と、総務省発表の平成30年住民基本台帳年齢階級別人口（都道府県別）から、該当年齢の県内外国人住民数を抽出して、およそその高校在籍率を推測してみました。

・平成30年三重県の16歳～18歳外国籍住民の推定高校在籍率

外国籍生徒県立高校在籍数（A）	16～18歳の推定人数（B）	A/B（高校在籍率）（%）
816名	1,454名	56.12

（A）に私立高校の在籍人数が含まれない点、（B）は5歳幅の年齢層から割り出した推測値（平均値の3倍）であること、また、技能修習生など就労目的の住民が含まれている可能性がある点など、データ加工上の問題点があり、数値を鵜呑みにはできません。

外国籍生徒の高校進学率に関しては、これまでにいくつか報道があります(下記参考)。

2009年度 三重県の外国籍生徒の高校進学率 82%（中日新聞記事より）

2016年度 津市の外国籍生徒の高校進学率 92.3%（三重ふるさと新聞記事より）

問題点を割り引いて控え目に考えても、高校を卒業するまでにかかなりの困難があるだろう、という推測はできます。外国ルーツの若者たちを取り巻く教育環境は、まだまだ厳しいといえそうです。

■ 冬のエッセイ

今回のテーマは「後輩へのエール」です。これまでの自分の足跡を振り返って、伝えたい思いやアドバイスを次の奨学生に向けて書いてもらいます。文集に掲載予定です。

■ 先輩奨学生からの寄稿

二期生の道下エレナさんが就職活動での経験や感想を寄稿してくれました。次ページに掲載します。

伝言板

東邦ガス(株)、3期生の武田エドアルドさんが聖隷福祉事業団に、それぞれ就職が内定しました。おめでとうございませう。

* * *

2期生佐々木海人さんは、起業に向けて昨夏ヨーロッパで市場調査を行い、着々と準備しているそうです。

* * *

休業して母国に一時帰国していた3期生ジエレナダユミさんが日本に戻って来ました。来春復学の予定です。

* * *

実施を延期している同窓会については、今年度は諸般の事情により中止することとなりました。楽しみに待って下さっていた皆様には大変申し訳ありません。ご了承お願い申し上げます。

想い

道下 エリナ

就職活動中、エントリーシートや面接を通じて多くの質問がぶつけられます。

「あなたが学生時代に一生懸命取り組んだことはなんですか。」

「あなたの強みは何ですか。」「挫折した経験はありますか。」

そして、

「志望動機はなんですか。」

就職活動を成功させるためには、これらの問いに対して勝ち抜ける回答をする必要があります。

当初は、何を書くべきなのか、どう書くべきなのか、全くわからず、インターネットで回答例を調べたり、大学のキャリアセンターに相談したりしました。

その結果、決まった型や王道のエピソードが存在することを知りました。そして嘘をつく人も多くいることを知りました。

しかし、就職活動を経験された先輩や、就職

活動を通して知り合う機会があった社会人の方々、いろんな人に話を伺っていると、それらの質問はわたしがどういう人かを知ろうとする内容であることに気付かされました。

自分はどういう経験を今までにきて、どういう価値観を有していて、一体何に興味を持っている人間なのか、意外と立ち止まって考える機会はないものです。ましてや人に伝える機会もありません。

就職活動中は嫌になるほど真剣に考えました。わからなくなり、友人に尋ねることもありました。そこから気づかされることが多くありました。

一方、志望動機に関しては考えるだけではわかりません。その前に、どういう仕事や会社が存在するのかを知る必要があります。求人サイトをみても、具体的にイメージするのは難しいです。

そこで、大学の先輩や就職活動中に知り合った多くの社会人に、「お仕事はどんなものですか。」「やりがいは何ですか。」「何故その会社を選ばれたのですか。」といろいろな質問をぶつけました。

そして様々な答えをいただきました。また、

どなたもそれぞれに想いを持っていることに気づかされました。これを数ヶ月間続けているうちに、自分なりの答え、想いがみつかりました。

日本の就職活動制度に対する意見はさまざまです。わたしは今の制度慣習が最善だとは思っていませんが、貴重な経験ができたと思っています。

就職活動を通じて、いろいろな方と出会い、様々な価値観にふれることができました。また、自分の価値観を見つめ直し、それを他者に表現する機会を得ることもできました。そして無事、志望していた会社に内定をいただくこともできました。わたしの場合は、景気が良かった、出会いに恵まれた、幸運だったのは確かだと思えます。

しかし、今後就職活動を行う皆さんに一つ伝えたいことがあります。いろいろな人の話を聞いた上で、自分と精一杯向き合ってみてください。そこから生まれた自分だけの想いはきっと相手に伝わります。